

第1期中期目標期間における評価結果について

■ 各年度における評価結果の概要（平成18～21年度）

	評 価 概 要
平成十八年度	<p>○「中期計画の進捗は概ね順調（「標準」のB評価）」</p> <p>○概 況</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化初年度である平成18年度においては、組織や制度の大幅な改革に取り組むとともに、教育研究、業務運営等の一部については既に成果を上げるなど、理事長（学長）がリーダーシップを発揮し、これに応じて多くの教職員が大学の活性化に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。 教育研究について 各種国家試験合格率の維持向上、外部の競争的研究資金への積極的な応募、学外との共同研究・受託研究拡大の取組が十分成果を上げるとともに、新たな教育課程の編成、学部学科等の再編の実現など、中期計画の進捗状況は概ね順調である。 業務運営について 一部に取組の遅れがみられるものの、理事長（学長）を中心とする機動的な運営体制の整備、人事委員会の設置等が行われ、既に機能を発揮している。 財務内容について 外部研究資金の獲得や経費抑制の取組など、進捗状況は概ね順調である。 今後、新たに編成した教育課程と教育研究組織についてはその実効性の確保に努めるとともに、進捗がやや遅れている広報や人事給与に関する事項については、所要の取組を進めるなど、引き続き大学改革を推進し、存在感のある「地域貢献型大学」にふさわしい着実な成果を積み重ねることを期待する。
平成十九年度	<p>○「中期計画の進捗は概ね順調（「標準」のB評価）」</p> <p>○概 況</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化2年目となる平成19年度は、文部科学省が大学の優れた教育プログラムに対して財政支援を行う「GP（Good Practice）」について、全国の公立大学で最多となる5件が採択されるなど、顕著な成果を得るに至っている。 教育研究について 平成19年度に再編した学部学科等新たな教育研究組織の運営が順調に推移するとともに、GPの採択により教育の質の向上や社会的ニーズに対応した人材養成の取組が加速されたほか、国家試験合格率や就職決定率も目標をほぼ達成している。 業務運営について 人事給与に関する事項の一部にやや取組の遅れが認められるものの、広報活動の戦略的かつ積極的な展開や、初のプロパー事務職員の採用の実現など成果を上げている。 財務内容について 授業料の改定やGPの5件採択等により、自己収入が大幅に増加している。 今後、進捗がやや遅れている事項については所要の取組を進めることはもとより、県立大学の特性を生かした組織的な教育研究活動を一層積極的に推進し、県民や地域

	<p>社会の期待に応え、存在感のある「地域貢献型大学」として更なる飛躍を遂げることを期待する。</p>
平成二十年度	<p>○「中期計画の進捗は概ね順調(「標準」のB評価)」</p> <p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人化3年目となる平成20年度は、中期目標期間の前半を終えた時点に当たるが、この3年間で、GPの7件採択をはじめ、オープンカレッジの拡充、外部研究資金の大幅な増加など、法人化前に比べて飛躍的な前進を遂げており、法人化が、大学改革、教育研究の活性化の大きな推進力になっていることがうかがえる。 ・ 教育研究について <p>GP補助金を活用した教育の質の向上等の取組が着実に推進されるとともに、平成19年度に新たに編成された基礎教養教育、学部専門教育、大学院教育のプログラムも概ね順調に機能している。</p> ・ 業務運営について <p>人事評価制度の導入に関する取組にやや遅れが認められるものの、大学情報の提供方法、内容の充実が図られたほか、事務職員のプロパー化も計画的に進められている。</p> ・ 財務内容について <p>GP補助金について、平成19年度採択の継続分5件に加え、新たに2件採択されたこと等により、前年度を上回る外部研究資金を確保している。</p> ・ 今後、第1期中期計画の確実な達成に向け、残された課題への取組はもとより、地域への情報発信の更なる充実や教育研究成果の積極的な還元を通じ、県民や地域社会の期待に応え、存在感のある「地域貢献型大学」として一層の飛躍を遂げることを期待する。
平成二十一年度	<p>○「中期計画の進捗は概ね順調(「標準」のB評価)」</p> <p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育研究について <p>GP補助金等を活用した各種教育プロジェクトが着実に推進されたほか、国家試験合格率や就職決定率も目標をほぼ達成している。また、ボランティア窓口の設置運営や国際交流機会の拡大の取組も計画に沿って進められ、成果を上げている。</p> ・ 業務運営について <p>人事評価制度の導入に関する取組がやや遅れているものの、より効果的、効率的な業務運営を目指した事務組織再編などが意欲的に行われており、事務職員のプロパー化も着実に進展している。</p> ・ 財務内容について <p>GP補助金については、継続分に加え、新たに戦略的・大学連携に係る事業1件が採択されたこと等により、前年度を更に上回る外部研究資金を確保している。</p> ・ 今後、残された課題への対処はもとより、次期中期目標期間を視野に、現在の教育研究や組織運営の状況について総合的に検証し、県民や地域社会の期待に応え、存在感のある「地域貢献型大学」として飛躍を遂げることができるよう取組を期待する。